

少年の主張

友達の大切さ

小牧市立小牧中学校

皆さんにとって「友達」とはどんな存在ですか。私にとって友達とは、寂しい時や孤独を感じた時に一緒にいてくれる存在であり、楽しい時などに一緒になって楽しんでもくれる存在です。また、共通の話題や趣味を共有出来たり、悩みを相談しあったりできます。もちろん、色んな個性を持った友達がいるし、その日によって気分も変わっていくので、その時の相手や様子を見ながら、静かに寄り添っているだけの時もあります。学校で多くの友達の中で生活していくことは、将来、私が社会人になった時にも役立つ経験になると思います。

私が友達の存在について深く考え始めたのは中学校に入ってからのことでした。小学校低学年の時は保育園の延長の様な感じで、とにかくやりたいこと、楽しいことにチャレンジしていました。学級委員や代表委員など、いろいろな役割に立候補していました。高学年になると学級委員をやりたい気持ちもありましたが、友達にもやりたい子が沢山いて、次第に遠慮するようになりました。

そして中学生になると、いろいろな小学校の生徒が集まっているので、学年や学級の人数が一気に増えました。そのため、初対面の人との交流の機会が増え、友達との関係もより複雑になっていきました。その結果、中学一年の後半からは、そういった役割に立候補すらしなくなりました。

私はその後もより一層、いろいろなことを遠慮するようになり、いつしか母から「小学校の時より大人しくなったね」と言われるようになりました。小学生の何にでもチャレンジしていたころと違い、あまり目立たないように、他のみんなの様子を見て過ごすようになったと思います。クラスの色々なタイプの人を見ていくうちに、人によって色々な関わり方があることを強く感じました。

例えば、Aさんは明るく陽気だから一緒になってわいわいはしゃいだり、Bさんは大人しく賢いからはしゃぎまくるというよりはたくさん話をしたり、一緒に勉強を教えあったり、と。そのようにその人その人によって、色々な関わり方があって、大変に思う時もあるけれど、それもまた友達と関わっていくことの良さなのかなと私は思いました。空気を読むという言葉がありますが、集団生活の中、一緒に楽しんだり、悲しんだり、成功や失敗を経験していくことで、その方法を自然に学んでいると思います。

現在の中学三年生になるまで、たくさんの人と出会ってきました。その中で、私は、人との関わりが多いほどいいのではないかと考えるようになりました。みんなと友達にならないといけない、ということではなく、「関わる」経験が大切だということです。人にはそれぞれの価値観があり、色々な人と関わっていくことによって新しい考え方を知り、人それぞれの価値観を知ることが出来ると考えたからです。それを知ることにより、自分の価値観や表現力も豊かになって、色々な視点からものを見られるようになってしまったからです。何気ない事ですが、私の友達にはルーツが外国の子もいます。それでも、同じ環境で育って来た私達は、人種の違いや性別など関係なく、「友達」という大切な仲間としてそうしたルーツを意識することなく関わっています。これから受験して高校生になり、別々の学校に行く事になる友達も出て来ると思いますが、それぞれの高校でも新しい友達を作り仲間が増えていく事を考えると、今はとても楽しみです。これからも、友達との関わりを大切にしていってことでまた新しい自分を見つけていきたいです。